

表彰大臣国交

# 咸臨丸とサラキ岬に夢みる会 手づくり郷土賞受賞

【木古内】国土交通省は12日、本年度の国土交通大臣表彰「手づくり郷土(ふるさと)賞」の受賞団体を発表した。道内からは木古内町のまちづくり団体「咸臨丸とサラキ岬に夢みる会」(久保義則会長)などが団体の活動が受賞した。会員らは「地道にやっできた成果、活動の励みになる」と喜んでいる。

同賞は、自然や文化、歴史など地域の魅力や個性を生かし

た活動を行う団体に贈られる賞。本年度の道内の受賞は同会など2団体。道南で受賞したのは、2006年度の「函館野外劇の会」以来、4団体目。受賞理由で「住民自らが考え行動し観光交流拠点として整備し、地域の活性化に寄与している」と住民のボランティア活動を高く評価した。

同会は、2004年10月に発足。サラキ岬沖で座礁、沈没した幕末の軍艦「咸臨丸」

をまちづくりに結びつけようと活動している。国道228号沿いにあるサラキ岬の公園の整備は、住民有志のボランティアに支えられてきた。これまで同艦の模型設置や花壇整備を行い、5月初旬に開いているリニューアル祭りに多くの観光客が訪れるようになった。

久保会長は「訪れる人がもっと楽しめるように、サラキ岬を公園として充実させるた

め汗を流したい」と気持ちを新たにしている。

また、今年と同艦が沈没してから140年の節目で、9月には同艦にゆかりのある自治体の関係者を招き、「咸臨丸サミット」開催を予定して

いる。多田賢洋事務局長は「手作りの活動が評価されうれい。サミット開催に向けて受賞は弾みになる」と話している。認定証の授与式は2月8日に町役場で行う予定。

(松宮一郎)

木古内「夢見る会」に手づくり郷土賞

## 「みんなの苦勞報われた」

「咸臨丸」観光など まちづくり評価



で「チューリップ祭り」を開いたり、手弁当のPR活動を続けてきた。

久保会長は「一人でも多くの人に岬を知ってもらおうと、みんなですぐに頭張ってきた。苦勞が報われて本当にうれしい」と満面の笑みを見せた。

授賞式は2月8日、木古内町役場で行われる予定だ。

(大城道雄)

【木古内】町内のサラキ岬沖で座礁した江戸幕府の軍艦「咸臨丸」の観光資源化に取り組む市民団体「咸臨丸とサラキ岬に夢見る会」(久保義則会長)が、国土交通省の「手づくり郷土賞」を受賞した。今年に咸臨丸座礁140

0周年の節目で、会員は「活動に弾みがつくと喜んでる。同賞は個性的なまちづくり活動に取り組む団体に与えられ、今回は全国の25団体、道内2団体が選ばれた。「夢見る会」は2004年に町民ら100

人で発足し、現在の会員数は約500人。サラキ岬に咸臨丸のモニュメントを設置したり、毎年5月に岬

チューリップ祭りを前にサラキ岬の花壇を整備する「夢見る会」会員ら  
2010年4月18日